

いのちと健康を守る活動

—ジョジョさんのクリニック日誌から—

<医療支援、6-8月の報告より>

<患者支援の事例から>

3/10: 甲状腺異常の患者に対応。手術ではなく服薬で様子を見ることにした。

6/4: 足のけがを放置したため化膿したルタイ地区の16歳の少年には抗生物質、痛みどめを処方し、グアバの葉を煎じた液を塗るように指示した。

7/24: マラパタン町から、11カ月の乳児を連れて母親がクリニックを訪れた。熱がある上、ミルクを買うお金がないということで、市販薬を処方するとともにミルクを与え、数日間ノビシエートに滞在させたところ元気になり帰宅した。

患者対応数（市販薬処方、薬草使用の指導など）

風邪 25名、胃腸障害 8名、外傷 7名 他 計 55名
（ノビシエートの研修に参加の住民が支援を求めたため通常より多くなった）

* 当団体の2015年度CMIP委託医療支援予算（ジョジョさん給与、医薬品代等）は、167,000ペソ/約45万円です。

<小学生への虫下し薬服用>

6/24 と **8/1** : それぞれナブル・カマガヤ小学校のチェリル先生、アトモロック小学校のレスリー先生に、回虫駆除薬を20本ずつ渡し、服用時の注意事項を伝えた。栄養不良や腹痛を防ぎ、勉学に集中するためにも回虫駆除は欠かせない。

<家庭訪問によるトイレ普及、薬草作り調査>

8/30: アトモロック校の教師から調査報告が届いた。49世帯中、トイレ設置家庭17、薬草畑13、野菜畑9という数字はまだ少ないので、今後も、教師の協力を得て、病気予防に効果的なトイレ普及、野菜作り等広めていく予定。

<風邪に効く薬草ラグンデの苗木育成・配布>

6/3-4: ラグンデの枝を挿し木したものを100本用意した。

6/16: チボリ町バサグの母親クラブを訪ねて、ラグンデの鉢を配った。集会所の空き地で育成の予定。

ジョジョさん、お疲れさまでした！

1998年10月から17年間、私たちの支援を、患者やその他のニーズに繋げてくれたジョジョさんが、今月末をもって早期退職することになりました。

CMIP新代表マーク神父は、積極的に山の村を巡って、コーヒー栽培等の収入向上事業の陣頭指揮に当たっており、医療面でも、もっと現場に赴いて、住民のニーズに応える活動にしたいと考えていて、病気の夫を抱えているジョジョさんでは難しいと判断したようです。

実直ではあるが、積極的とはいえないジョジョさんに対しては、私たちも、支援内容や報告に対して何度も助言をしてきました。最近は健康保険加入指導、母親クラブ組織化、薬草や野菜作り指導等、村を訪ねての指導も評価できるようになったところでした。残念ですが、今後は、まだ人選中という新スタッフとともに、引き続き治療より予防の方針のもとで、できれば、ナブサさん指導のPIHSのような、住民主導の健康な村作りをめざして協働していきたいと思えます。



割礼を怖がる男児をなだめるジョジョさん（82号P4で報告のマラパタン町トカブラオ地区の割礼会場で）

PIHSによる医療、保健の活動7-9月分



栄養月間の7月に実施されたブラコン地区での給食。ここは母親や幼児の識字教室もあり、給食活動は盛んです。

* 灌漑用水路の水を飲んだため、大人子どもあわせて20名が下痢と発熱により入院したブラコンとトゥヤンでは、保健ボランティアたちが、地元政府他から寄附を集めて、湧水を引き、少なくとも安全な飲み水は確保できた。（7月）

* 0-9歳の栄養不良の子どもたち169名に対する給食の実施、母親への栄養指導を2地区で行った。（7月。写真）

* 14名の保健ボランティアが参加して、患者を安全、かつ迅速に、医師のもとに運ぶ方法を学んだ。（8月）

* 保健ボランティア12名と青年部の20名が参加して、主に女性たちが悩みとする疲労感や肩、腰に効くマッサージ、指圧研修を行った（9月）

（WE21 ジャパンみどり支援によるPIHS自主財源事業は、P5収入向上ページで紹介）